

複数施設の技術と資源を活かした仕事の創出

社会福祉法人 あすなろの会
〒402-0011 山梨県都留市井倉見通 250

助成事業の概要

私どもが持つ加工技術や近隣で入手できる間伐材など、地域資源を活かし、同様の手仕事に取り組む B 型事業所職員の方々と情報共有しながら技術習得を目的とし、連携商品につなげられたらと、本事業を申請しました。「甲斐の里山のものづくり講座～マホロバの手仕事教室」をテーマに、以下 8 回、各回講師を招き、約 4 時間の講座を開催しました（4 回目開催日は台風直撃だったため延期とし、次回に午前と午後と分けて 2 回分を開催、8 回目に反省会を実施）。

1 回目：5 月 26 日（土）無農薬畑で栄養いっぱいのケール栽培講座（土づくりと苗作りと植え付けを学ぶ）

2 回目：6 月 9 日（土）ひのきの間伐材からカトラリー製作講座

3 回目：6 月 30 日（土）コースターの珈琲染め講座

4 回目：8 月 25 日（土）ケール収穫と“きらめ樹間伐”体験+ひのきの間伐材からカトラリー製作講座

5 回目：11 月 17 日（土）地元素材を使った商品開発講座

6 回目：12 月 8 日（土）はじめてのウェブショップとデザイン講座

7 回目：1 月 26 日（土）La Mano を訪ねてプロダクトデザインを学ぶ講座

8 回目：3 月 27 日（水）振り返りと反省会

事業の成果

講座には東京や長野からも施設職員の方々が参加、技術を習得と連携を深めることができました。各回の実施内容と参加人数は以下となります。

◆1 回目=18 名参加。農薬と化学肥料を使わない土づくりの工夫、ケール栽培の苗作りを学び、苗を植え付けました。参加施設は苗を持ち帰って育てながら、その後の質問も講師に電話とメールで丁寧に指導頂いたと喜んでいました。

◆2 回目=27 名参加。ひのき間伐材でバターナイフ、マドラー、箸、カード立て等から参加者が一つを選び、サンドペーパーで磨きを練習。当法人の利用者と職員とボランティア学生も一緒に参加、自らの作品を作り、ほぼ参加者全員が「またやりたい」と笑顔をみせていました。

◆3 回目=22 名参加。珈琲染めに必要な資材一式を講師が準備、参加者全員が自分でコースターにフリンジを施し、珈琲染め体験ができました。T シャツの豆絞りも体験。染めは以前から習いた

かったので大変役立ちました。

◆4 回目=29 名参加。長野と東京から複数施設職員が参加。5 月に栽培したケール収穫と、ひのきの間伐を午前中に体験、午後は間伐材を使い 6 月と同様木工カトラリー類磨き作品を仕上げ、レベルも向上し充実した回になりました。

◆5 回目=4 名参加。地元素材を使った商品開発と広報について、当法人の果実ドライ加工品を使った商品企画をする会社社長から指導頂きました。少人数で質問にも詳しく答えてもらい、今後の商品開発について話し合い、大変参考になりました。

◆6 回目=6 名参加。ウェブショップとデザインについて、BASE の運用をデザイナーの方に指導頂きました。長野の参加施設では、6 月と 8 月の講座で制作した木工作品を活かし、講座後ウェブショップ立ち上げに着手、おおいに活用頂きました。

◆7 回目=10 名参加。東京都町田市で高品質な織りと染めを生産される B 型施設 La Mano さんを訪ね、プロダクトデザインを中心に学びました。職員の方々が利用者に対して工夫を凝らしている内容を詳細に高野施設長から教えて頂き、大変勉強になりました。

◆8 回目=振り返りと反省を実施。全講座を通して私どもの自主製品に何をどう活かしていくか、また他施設と今後の連携をどうしていくかをコーディネーターの方と話し合いました。

成果の広報・公表

<ブログでの発信>

当法人のブログで公表、発信していきます。

<東京都調布市画廊に展示>

染め講座で指導くださった東條照代さんが、珈琲染めのリネン生地と、磨きで仕上げた木工ボタンを組み合わせたカトラリーケースを提案くださいました。これを、木工講座指導をしてくださった松田光二さんが、講座で製作した、ひのきのバターナイフ、箸、河原の石とひのきを組み合わせたカード立ての作品と一緒に、画廊のグループ展で展示してくださいました。

<岡山県倉敷市加計美術館に展示>

同じく、木工指導の松田さんが、日本クラフト協会を通じて、石とひのきのカード立て作品を展示してくださいました。

<工芸都市高岡クラフトコンペティションに出展>

同じく、石とひのきのカード立て作品を出展いただきました。

今後の展開

ケール栽培、間伐と木工製作、珈琲染め、商品開発、ウェブショップ、プロダクトデザインと、ものづくりについて幅広く、他施設の方々との交流も含めて学ぶことができました。今後はひとつひとつを法人内の自主製品や OEM 取引に落とし込み、活かしていきます。

また、間伐を使った木工磨き製品については、画廊・美術館・クラフトコンペと出品頂くことができ、とても励みになり、ものづくりの可能性が広がりました。利用者からは、もっとやりたいとリクエストが出ており、木工講座をお願いした講師と、当法人の造形指導担当者とともに、定期的に利用者と取り組んでいく予定です。

講座に参加くださった他施設も、今年度は独自にケール栽培や染め、木工に取り組んでいくと聞きました。引き続き連携して、本事業の講座で習得した技術を活かし、製品づくりに取り組んでいく予定で話合っています。